

平成29年度農作物病虫害発生予察注意報第1号

平成29年7月14日
山口県

病虫害名 水稻の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、アカスジカスミカメ等）

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 出穂期以降

3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 7月10日～12日の雑草地等における20回すくい取り調査では、斑点米カメムシ類のすくい取り虫数が134頭で平成（82頭）に比べ多く、特にアカスジカスミカメは過去10年で最も多かった（図）。
- (2) 県内4か所の予察灯における6月1日～7月10日の斑点米カメムシ類の誘殺数は、591頭で平成（640頭）並みであったが、特に大きい被害を与えるクモヘリカメムシは平成に比べ多かった（表）。

5 防除方法

- (1) 畦畔、休耕田等の草刈り
カメムシ類が増えるのを避けるため、出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、それ以降もイネ科雑草（エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等）の穂が出ないように管理する。
- (2) 薬剤防除（粉剤、水和剤等を散布する場合）
 - ア 8月上旬までに収穫するほ場では、穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を徹底する。
 - イ 8月中旬以降に収穫するほ場では、穂揃期の防除を徹底する。
 - ウ 薬剤を散布した後もほ場でカメムシ類の発生が見られる場合は、さらに7日後に追加防除を実施する。
 - エ 防除薬剤は平成29年山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。
(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/002mokuji.html>)

6 防除上注意すべき事項

- (1) 収穫直前及びその後の草刈りは、カメムシ類の水稻への移動を促し加害を助長するので避ける。
- (2) 休耕田の雑草が繁殖源となる場合が多いので、休耕田の除草を徹底する。
- (3) 周囲よりも収穫の早いほ場、休耕地や雑草地周辺のほ場はカメムシ類による被害が多くなるので防除を徹底する。
- (4) カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- (5) 防除時期に畦畔に収穫したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。
- (6) 粒剤で防除を行う場合は、収穫後に施用する。
- (7) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守、蜜蜂被害軽減対策など安全で効果的な防除に努める。
(<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/c/1/5/c1569a94e539cb98a01f5654c1092134.pdf>)

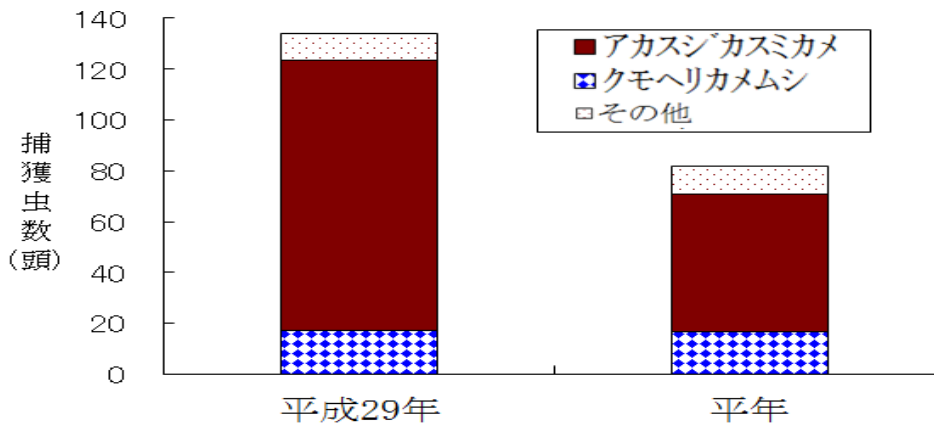


図 雑草地でのカメムシ類の発生量（7月10日～12日の20回すくい取り調査）

表 予察灯における斑点米カメムシ類誘殺数(6月1日～7月10日；県内4か所合計)

年度	種類別誘殺数(頭)				合計
	クモヘリカメムシ	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソトリカスミカメ	その他	
平成29年	13	459	107	12	591
平年	4	569	62	5	640



写真1 クモヘリカメムシ成虫
(体長 15～17mm)

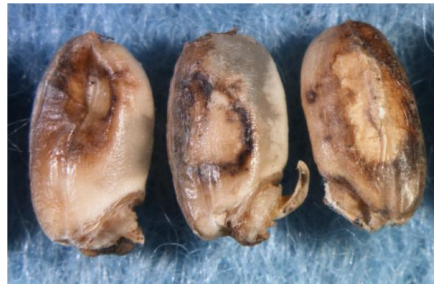


写真2 クモヘリカメムシによる被害粒（斑点米）



写真3 アカスジカスミカメ成虫
(体長 5～6mm)



写真4 アカスジカスミカメによる被害粒（斑点米）



写真5 アカヒゲホソトリカスミカメ成虫
(体長 5～6mm)



写真6 ホソハリカメムシ成虫
(体長 9～11mm)